

# 東日本大震災は子どもたちの教育に何をもたらしたのか？

## 被災地で今も活動する教育支援NPO8団体による 5年間の総括と現状の課題、そして未来へ

未曾有の大震災は、子どもたちの教育にも大きな影響を与えました。

「震災によって、子どもたちの未来を閉ざしてはならない。」

誰もがそのように考え、数多くの団体が被災直後から子どもたちの教育支援を行ってきました。そして、震災から5年が経とうとしている今、被災地の子どもたちを取り巻く環境はどう変わったのか？子どもたちの教育支援はその役割を終えたのか？

本シンポジウムでは「子どもの教育支援」に的を絞り、被災直後から今に至るまで、現地で活動を続ける8団体が集い、これからの子どもたちの教育支援について、広く皆様と検討する場としたいと考えております。いまだかつて、これだけの団体が集結し、話し合う場はありませんでしたが、震災から5年が経ち、急速な風化が進む中で、それぞれの団体が危機感を感じ、今回のシンポジウムが実現しました。

復興は道半ばであり、また若年層の人口流出や高齢化にどう向き合い、立ち向かうのか、それぞれの団体が悩み苦しみながら活動しています。その中で見えてきた、次の5年間の方向性を提示します。子どもたちのため、ぜひ多くの皆様にご参加いただけますよう、よろしくお願いいたします。

日時：2016年2月11日(木)祝日 14:30～17:00

会場：TKPガーデンシティPREMIUM 仙台東口 ホール10B

宮城県仙台市宮城野区榴岡3-4-1アゼリアヒルズ

定員：100名 参加費：無料

申込方法：下記URL、もしくはQRコードよりお申し込みください

(スマホ・PC) <http://bit.ly/1JbLtlY>

(携帯) <http://bit.ly/2091A0t>



### 一プログラム一

【基調講演】 東日本大震災以降の教育支援について

文部科学省大臣官房 文部科学広報官 鍋島豊 様

【第一部】 5年間の総括と現状の課題、そして未来へ

(各団体の活動紹介とこれからの活動計画)

【第二部】 全体討議「5年目以降の教育支援を考える」

お問い合わせ NPO法人キッズドア WAM事業事務局 担当:生田・ディアス  
〒104-0033 東京都中央区新川2-1-11 八重洲第1パークビル7階  
TEL03-5244-9990 FAX03-5244-9991 wam@kidsdoor.net

## 登壇者プロフィール

### NPO法人アスイク 代表理事 大橋雄介



1980年生まれ。福島市出身、筑波大学卒。株式会社リクルートマネジメントソリューションズのコンサルタントとして、大手企業に対する組織開発のコンサルティングに従事した後、2010年3月に独立。独立後、市民活動の先駆者である加藤哲夫氏と出会い、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンターにてソーシャルビジネスの起業支援やネットワーク形成プロジェクトを担う。震災発生直後にアスイクを設立。著書に「3・11被災地子ども白書」(明石書店)等。仙台市市民公益活動促進委員(第8期)。

### 認定NPO法人カタリバ 東北復興事業部統括ディレクター 鶴賀康久



これまで全国述べ4,500名のボランティアスタッフとともに、年間約100校の高等学校にキャリア学習プログラム「カタリ場」を展開してきた。2011年度より、東日本大震災の被災地で放課後学校「コラボ・スクール」の立ち上げに従事。現在は宮城県女川町にある「女川向学館」でコラボ・スクールの運営に関わっている。

### NPO法人キッズドア 理事長 渡辺由美子



千葉大学工学部出身。大手百貨店、出版社を経て、フリーランスのマーケティングプランナーとして活躍。2000年から2001年にかけて、家族でイギリスに移住し、「社会全体で子どもを育てる」ことを体験する。準備期間を経て、2007年任意団体キッズドアを立ち上げる。2009年内閣府の認証を受け、特定非営利活動法人キッズドアを設立。日本の全ての子どもが夢と希望を持てる社会を目指し、活動を広げている。

### NPO法人底上げ 野田篤秀



2014年関東学院大学教育学部を卒業。2011年大学在学中に、教員を志す半ば震災が発生。教育の主眼とされている「生きる力」「問題解決能力」「子どもの主体性の育成」のヒントが気仙沼にあると感じ、大学を卒業後、気仙沼で暮らし始める。日々、新しい教育のかたちを模索中。現在は主に宮城県南三陸町の子どもたちの支援活動に取り組んでいる。

### 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 代表理事 奥野慧



19歳の時に新潟県中越地震を経験。関西学院大学在学中、NPO法人ブレインヒューマンティーで国際交流事業に関わる。2011年3月から東日本大震災緊急支援活動に参加。その後当法人設立・代表理事に就任。



### **NPO法人TEDIC 代表理事 門馬優**

1989年3月1日生まれ、宮城県石巻市出身。早稲田大学大学院教職研究科修士課程修了。故郷の被災をキッカケに、大学院在学中の2011年5月にTEDICを設立。生活困窮、虐待、ネグレクト、不登校、ひきこもりなど困難におかれる子ども・若者支援にあたる。(2014年9月にNPO法人化)。石巻市地域福祉委員(第3期)、石巻市教育委員会学校支援地域コーディネーター、日本ボランティアコーディネーター協会検定・認定システム化検討委員会委員。



### **NPO法人寺子屋方丈舎 理事長 江川和弥**

フリースクール全国ネットワーク代表理事。学校に行かないというだけで、子どもが教育の場から、福祉やケアの場に移されてゆくことに非常に違和感を感じ、学びの場として寺子屋方丈舎を設立。自身も高校中退、いわゆる不登校のキャリア組です。若者たちが、子どもの分離や排除、逸脱を異常なこととして受け止め、教育の幅を広げながら学びの場を作ることを応援しています。教科学習は学びのうちのごく一部にすぎない。モットーは、自分を教育するのは自分自身である。



### **NPO法人ビーンズふくしま 被災子ども支援部門理事 中鉢博之**

フリースクールビーンズふくしま(現NPO法人ビーンズふくしま)の設立に関わり、不登校・ひきこもり等困難を抱える子ども・若者の支援と場づくりに取り組む。震災以降は被災子ども支援プロジェクト「うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト」を立ち上げ、仮設住宅の子ども支援(学習・遊び・文化活動・子どもを中心としたコミュニティづくり)を行い、各団体との連携・コーディネートを行う。また、厚生労働省の要請で設置された、東日本大震災中央子ども支援センターの福島担当として、中長期にわたって必要な親子のケアの体制づくりと諸事業に取り組んでいる。